

霜降り豚肉の生産技術

背景・目的

近年、霜降り豚肉(いわゆるサシの入った豚肉)の需要が高まっています。

試験に用いたエコフィード
(廃棄中華麺等を利用)



これまでの研究により、必須アミノ酸であるリジンの少ない飼料により、サシの多い豚肉を生産できるが、同時に増体(成長)が悪くなり、実用的ではありませんでした。

飼料中のタンパク質を増やし、リジンをタンパク質に対して相対的に少なくすることで、増体を悪化させずに霜降り豚肉を生産する技術を、安価で環境負荷の少ないエコフィード(食品残さ等を用いた飼料)により確立しました。

試験方法

対照区は通常の栄養要求量を満たした飼料、低LPR区ではリジン/タンパク質比を低下させた飼料を給与し、生産性、枝肉形質及び肉質を測定しました。

給与飼料の配合割合：%

	対照区	低LPR区
ゆで中華めん	81.53	81.47
フスマ	9.64	8.76
大豆粕	1.15	4.54
脱脂ヌカ	1.02	
パン屑	3.77	
野菜屑	1.02	1.02
コーングルテンミール		0.55
砂糖	0.92	0.20
塩酸リジン	0.11	
第2リン酸カルシウム	0.43	0.43
炭酸カルシウム	0.31	0.31
Vit・ミネラルプレミックス	0.10	0.10

給与飼料の成分値

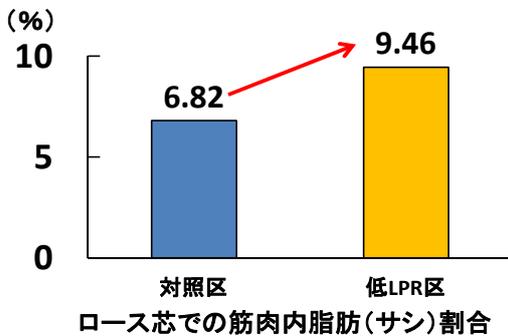
	対照区	低LPR区
可消化エネルギー, Mcal / kg	3.9	3.9
粗タンパク質(OP), %	15.5	18.5
粗脂肪, %	2.5	2.5
カルシウム, %	0.9	0.9
リン, %	1.1	1.0
リジン, %	0.7	0.7
LPR(lysine/protein ratio)	0.045	0.037

低LPR区では粗タンパク質を増加させ、LPRを低下させています

研究結果の概要

	対照区	低LPR区
飼料摂取量, kg/day	3.02	3.02
日増体量, kg/day	1.10	1.10
飼料効率	0.32	0.35
枝肉重量, kg	78.5	77.4
背脂肪厚, cm	3.3	3.3
歩留率, %	66.2	65.9

両区で生産性、枝肉形質に差はありませんでした。



低LPR区では対照区に比べ、筋肉内脂肪(サシ)が1.4倍に増加しました。



まとめ・今後の推進方向

- 本研究により、エコフィードを用いて、リジン/タンパク質比を低下させた飼料を給与すると、発育に悪影響なく霜降り豚肉を生産できることが明らかになりました。
- 今後は、筋肉内脂肪の増加に影響する要因をより詳細に分析し、さらに効率のいい霜降り豚肉生産技術を確立します。